

1. ルカ福音書の概要

- ・マルコを利用（酷似した筋立て）
- ・献呈の辞（ルカ 1:1-4）
 - テオフィロ（使 1:1-2）
 - ↓
 - 二巻本（ルカ福音書 + 使徒言行録）=ルカ文書
- ・歴史書？ 伝記物語？
- ・ルカの歴史認識（献呈の辞、皇帝・総督の治世を明記、など）

- ・テオフィロ
 - (1) ローマ高官 「敬愛する *κράτιστος*」 = 「閣下」（使 23:26; 24:3; 26:25）
 - (2) 「キリスト信仰者」のコードネーム？ 隠語？
 - Θεόφιλος* *theo-philos* → 「神 *θεός*」 + 「友、仲間 *φίλος*」
 - 類語 *Θεοφιλής* *theophilēs* 「神に愛された、神を愛する」
- ・洗礼者ヨハネの誕生物語、少年イエス、平野の説教、女性たちの支援、多様なたとえ話、など
- ・ルカ福音書の構成（配布プリント）

2. ルカ福音書におけるイエス像

- (1) 拒絶された預言者
 - ・ナザレで拒否されるエピソード（ルカ 4:16-30）
 - 宣教活動における位置
 - 宣教活動半ば（マルコ 6:1-6; マタイ 13:53-58）
 - 宣教開始直後（ルカ 4:16-30）
 - イザヤ 61:1; 58:6 の引用とその成就（ルカ 4:18-21）
 - 神から派遣された預言者イエスとその使命
 - エリヤとエリシャの言及（ルカ 4:25-27）
 - ・預言者エリヤ→イスラエル→異邦人（サレプタのやもめ）（列王記上 17:9）
 - ・預言者エリシャ→イスラエル→異邦人（シリア人ナアマン）（列王記下 5:14）
 - ・預言者イエス→拒否→（異邦人）
 - ・マリアの賛歌（ルカ 1:46-55）とハンナ（預言者サムエルの母）の賛歌（サム上 2:1-10）
 - … 奇跡的な懐妊、貧しい者（低い者）の格上げ
 - ・やもめの一人息子を蘇生（ルカ 7:11-17）と預言者エリヤの奇跡（列王記上 17:17-24）
 - … 「大預言者が我々の間に現れた」（ルカ 7:16）
- (2) 殉教の預言者
 - ・預言者の（悲しき）伝統

預言者 (神の代弁者)

↓ 神託 (断罪、審判) ↑ 無視・迫害・殺害

指導者 (王)、民衆

☆マタイ 5:11-12; 23:29-31, 37; 使 7:52; ヘブ 11:32-38

☆旧約偽典『イザヤの殉教』、『預言者の生涯』など

・エルサレムを嘆く場面

マタイ 23:37-39 とルカ 13:31-35 の比較

ルカ 13:33 「だが、、、預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ」

→神によって選ばれた預言者として運命を受容

☆ルカ 9:35; 23:35 「選ばれた者」としてのイエス (←ルカだけの文言)

・オリーブ山の祈り (ゲツセマネの祈り)

マルコ 14:32-42 と ルカ 22:39-46 の比較

14:33 「ひどく恐れもだえ始め」(ルカにない)

14:34 「わたしは死ぬばかりに悲しい」(ルカにない)

14:35 苦悩するイエス → 簡素化 (ルカ 22:41)

14:36, 39, 41 三度の熱烈な祈り → ただ一度 (ルカ 22:42)

→ルカでは人間的な不安や疑いが後退

・十字架の場面

ルカ 23:26-49 冗舌、平静なイエス (マルコ 15:21-41 寡黙、絶望のイエス)

23:28-31 女性へ預言のことば (エルサレムへの審判、19:41-44 も参照)

23:43 囚人への救いのことば

23:46 最期のことば「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」(詩 31:6)

23:47 百人隊長のことば「本当に、この人は正しい人だった」 → 「義人の死」のテーマ (マカバイ記 1、4 など)

3. 十字架死の理解について

・マルコ 贖罪死 (罪をあがなう死)

10:45 「身代金」発言 (マタイ 20:28 は採用)

14:24 イエスの血=契約の血 //マタイ 26:28; ルカ 22:20 cf.ヨハネ 6:51-58; 1 コリ 11:25

15:38 神殿の垂れ幕 (至聖所と聖堂を隔てる幕)

…① 神の顕現 (局地性・民族性の克服) →異邦人伝道の開始

…② 神殿祭儀 (犠牲祭儀) の終焉

☆ユニークな贖罪論: 大祭司イエス論 (ヘブ 9:11-14, 23-28 など)

- ・ルカ 預言者的殉教死（義人の死）

マルコ 10:45 を採用せず

「神殿の垂れ幕」の描写を死の直前へ移行、かつ黙示文学的描写を付加（ルカ 23:45-46）

（参考）神の審判と天変地異

→マルコの贖罪論的理解を後退させている？

☆殉教死と救済論の関係

正しい人（義人）を殺害… 死そのものではなく、死が促すものが肝要

↓

悔い改め *μετάνοια metanoia* 「考えの変更、立ち戻り」、

μετανοέω metanoēō 「帰る、立ち戻る」

神の道に立ち戻ること！

↓

罪の赦し（ルカ 17:3-4; 24:47）

4. 悔い改めの神学

- ・イエスの宣教目的（ルカ 5:32）
- ・悔い改めと滅び（13:3）
- ・罪人の立ち戻りと喜び
 - ①「見失った羊」のたとえ（15:7）
 - ②「無くした銀貨」のたとえ（15:10）
 - ③「放蕩息子」のたとえ（15:17）
 - ④徴税人ザアカイ（19:1-10）

ルカはどうして贖罪論を後退させ、殉教死を前面に出したのか？

- ・倫理的勧告（悔い改め）の受容性
- ・「殉教の精神文化」（ソクラテスの殉教など）

↓

ギリシア・ローマ世界との互換性を目指した？

（補足）贖罪信仰について

前提：①堅固な神信仰（神の義）、②罪の自覚、③慈愛（赦し）の神

（参考文献）

ヘンゲル『贖罪—新約聖書におけるその教えの起源』、教文館、2006年

佐藤研『悲劇と福音—原始キリスト教における悲劇的なるもの』、清水書院、2001年

青野太潮『「十字架の神学」の成立』、ヨルダン社、1989年